

Focus on Asia

公演日時

3月14日(金) 19:30 山下残 & アン・エソン・ダンスカンパニー

3月15日(土) 14:00 山下残 & アン・エソン・ダンスカンパニー

3月16日(日) 18:00 エイサ・ジャクソン、ジョン・グムヒョン

*開演40分前より受付開始。入場整理券を発行します。

*開場は開演の20分前。

*演出の都合により、開演後の途中入場を制限させていただく場合がございます。

*未就学児童の入場はご遠慮ください。

料金【日時指定・自由席】

一般前売 2,500円 一般当日 2,800円 学生 2,000円 (前売のみ、要学生証)

三作品セット券 (前売のみ) 一般 4,000円 / 学生 3,000円

※アイホールでのみ取扱いとなります。 ※ご本人様のみ有効です。

チケット発売日: 1月18日(土)

チケット取扱

○アイホール tel:072-782-2000

○JCDN ダンスリザーブ (オンラインチケット予約) <http://dance.jcdn.org/>

会場・お問い合わせ

アイホール (伊丹市立演劇ホール)

〒664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1

tel:072-782-2000 fax:072-782-8880

info@aihall.com <http://www.aihall.com> twitter @ai_hall

火曜日休館

JR伊丹駅前 / 阪急伊丹駅より東へ徒歩7分

平成25年度文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業

主催: 公益財団法人伊丹市文化振興財団・伊丹市



アイホールダンスコレクション Vol.173 フォーカス・オン・アジア——アジア三作品上演

Zan Yamashita & Ahn Aesoon Dance Company

"It is written there"

Eisa Jacson

"Death of the Pole Dancer"

Geumhyung Jeong

"Oil pressure vibrator"

2014.3.14fri - 16sun AI-HALL

3.14fri 19:30 / 15sat 14:00

山下残 & アン・エスン・ダンスカンパニー 『そこに書いてある』

Zan Yamashita & Ahn Aesoon Dance Company "It is written there"

独自の的方法論と構造をもった作品を発表する振付家、山下残。

「言葉」と「身体」の化学反応を楽しみつつ、ダンスの既成概念が問い直される刺激的な舞台。



写真提供：ガンドン・アーツ・センター

来場者全員に100ページにおよぶ本を配布し、ページを一枚一枚めくりながら作品が展開します。本の中には、舞台上のダンサーの動きと同期するように、振付を示唆する文字や絵が書かれています。

(上演時間：約80分 / 日本語・韓国語上演 / 日本語・韓国語通訳、字幕あり)

構成・演出・振付：山下残
出演：ハン・サンリョル、ホ・ヒョソソ、ユン・ボエ、山下残
ゲスト出演：渡部智江、Yangjah、伊丹市手話サークル「こめびの会」
共同製作（韓国版）：フェスティバル・ボム、ガンドン・アーツ・センター、アン・エスン・ダンスカンパニー
助成：公益財団法人セゾン文化財団

エイサ・ジャクソン 『デス・オブ・ザ・ポールダンサー』

Eisa Jacson "Death of the Pole Dancer"

コンセプト・振付・出演：エイサ・ジャクソン



photo:Barrit Sanchez

本作は、私たちの「自らが見ていると思っているもの」の見方に疑問を投げかけます。自分たちが目撃するもの、ポールダンスを踊っているひとりの女性について考えることが仕掛けられ、窺視、抑制、脆弱性、暴力、セクシャリティ、権力といった概念を再構築していきます。ポール・ダンサーのステレオタイプとコンテキストを問い直し、発展させた作品。(上演時間：約15分)

Concept, choreography & performance: Eisa Jacson / Coach, Dramaturgical advice: Rasa Alksnyte
Commissioned by: In Transit 2011 performance art festival, HKW Berlin / Supported by: Nadine, Brussels

エイサ・ジャクソン / Eisa Jacson

フィリピン出身の振付家、ダンサー。バレエのバックグラウンドを持ち、ビジュアルアーティストとしてもトレーニングを受けている。2010年にマニラのポールダンス大会で初めて優勝し、その後、ニューヨークその他多くの都市での活動を展開。本作及び最新作「マッチョ・ダンス」において、彼女はサービス産業における身体の労働と表象を調査し、ジェンダー形成、醜態のポリティクス、フィリピンの社会的流動性を明らかにしようとしている。「マッチョ・ダンス」は、スイスのフェスティバル、チューリヒ・シアター・スペクタクルにおいて、「ZKB Acknowledgement Prize」を受賞。



3.16sun 18:00

『デス・オブ・ザ・ポールダンサー』『油圧ヴァイブレーター』連続上演

*一作品の上演後、転換のため休憩(約30分)をとります。ホワイエにてトーク企画を実施します。

数々のフェスティバルに招聘され、世界が注目するアーティストの連続上演。
アジアという地域性のみならず、ジェンダーの視点を交え、現代社会を多角的に、
コンセプチュアルに描き出します。



photo:Gajin Kim

ジョン・グムヒョン 『油圧ヴァイブレーター』

Geumhyung Jeong "Oil pressure vibrator"

テキスト・演出・出演：ジョン・グムヒョン

ドキュメンタリー的な映像、自身によるナレーション、パフォーマンスで構成される作品。彼女が抱く「掘削機」への恋心とその理由、自らの過去について観客に語りかけます。すると、このアーティストが作品を紹介しているのか、それとも物語の登場人物の告白を聞いているのか、物事は曖昧になっていきます。現実とフィクションの境目が混じり合い、謎めいた、そしてユーモラスなパフォーマンスが繰り広げられます。(上演時間：約60分 / 韓国語上演、日本語字幕付き)

Text, Direction & performance: Geumhyung Jeong
Cinematography: Geumhyung Jeong, Hoseung Jeon, Bongwao Park, Youngkyo Choi
Editing: Geumhyung Jeong, Younghyun Jeong

ジョン・グムヒョン / Geumhyung Jeong

韓国を拠点とする振付家、パフォーマー。身体とそれを取り巻くモノとの関係の再構築を試み、その表現の切実さとユニークな世界観で注目を集めている。日常的なアイテムを使用し、自らの身体との強烈かつ危険な相互作用を通じて、それらに奇妙で心をかき乱すような生命を与えていく。演劇やダンスのバックボーンをもとに、スリリングなパフォーマンスを生み出している。韓国の湖西大学校にて演劇を、韓国芸術総合学校にてダンスを、韓国映画アカデミーにてアニメーション映画を学んだ。日本での活動としては、2011年に、TPAM in Yokohama 海外ショーケース、F/T 公募プログラムに参加している。

